



園だより ～きづき～

キ3園 第1号

R8年 5月1日

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

新緑の若葉にすがすがしさを感じる季節になりました。

新年度が始まりあっという間に一ヶ月が経ちました。少しずつ新しい環境に慣れ、子ども達の笑顔も増えたように感じます。気候の良い季節です。今月は戸外に出て、たくさん遊びたいと思います。また、体調管理にも気をつけて行きます。

さて GW が始まります。ご家族で、出かけられることが多いかと思います。事故やけががないようにして楽しんでください。休み明けはどんな表情でやってくるのか楽しみにしています。

5月行事予定

11日(月) 身体計測

20日(水) 避難訓練

21日(木)健康診断

歯科検診・日程が決まり次第

はい・チーズでお知らせします。

23日(土)は、お弁当日です。

おやつや飲み物は園からします

お知らせ・おねがい

- ・はい・チーズの記入ありがとうございます。土曜日欠席の場合、欠席入力をしていただけると助かります。
- ・気温が上がってきますので、半そでの着替えとタオルをロッカーに入れて頂きたいと思ひます。
- ・お子さんの様子が気になる時は、朝保育士に声掛けください。
- ・今月は歯科健診があります。(年2回ほどあります。この日はなるべく休まないようお願い致します。)
- ・おまつりごっこは9/12(土)を予定しています。

2歳児です



1歳児です

0歳児です



クラスの様子

0歳児の4月新入園児は一人でしたが今月から新しいお友達が増えました。天気の良い日は外気浴をしています。

0歳児

みんなよく動きます。好きなおもちゃを見つけてニッコリ…園の周りを少しずつ歩いていきます。絵本が大好きで興味を持って見えています。

1歳児

担任と一緒に散歩や戸外遊びをしています。活動内容も増え、少し大きくなったことを感じています。今月からこども園のお友達との交流が始まります

2歳児



子どもが望む大人の世界⑦ ～17の子どもの願い～

牧野 桂一先生 子育ての参考になるエッセイを書いて下っています。

前回までに紹介しきれなかった⑬番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」以下の項目について、今回も同じように順次紹介していきたいと思います。

最初には、⑬番目にあたる「子どものあるがままの姿を受け入れる」から始めていきたいと思います。「子どものあるがままを受け入れる」ということは、子どもの性格や感じ方、得意不得意、言動などの背景にある子どもの気持ちを否定しないで、「そう感じているんだね」「あなたはあなたでいいんだよ」と一人一人の子どもの生きている土台で認め、子どもの「あるがまま、そのまま」を大事に受け止めるということなのです。

ここで考えておかなければならない問題として、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ということが、「子どもたちのすることなすことを全て許す」という意味ではなく、「子どもの人間としての存在」と「子どもの行動」を分けて考えるということです。子どもの人間としての存在はきちんと認めるけれども行いの間違ってすることはそのままでは認められないという姿勢が大切になります。ですから、子どもたちは「自分にダメなところがあっても間違いをしても基本的には人間として愛されている」ということが実感でき、「自分はここにいいのだ」「自分は人間として認められているのだ」という感覚をもてるように育てることが重要になります。そうすると、子どもたちは失敗しても立ち直ることができ、新しいことにも挑戦することができるようになります。このように自分の感情を頭ごなしに否定されずに聞いてもらえる経験が増えいくと、子どもの中には自尊心と自己肯定感が育ち、自分の「怒ってる」「悲しい」「悔しい」「嬉しい」気持ちを安心して表現し、自分の気持ちを言葉にすることができるようになります。そして「困ったときはお父さんやお母さんに話しても大丈夫」という信頼感が積み上がり、将来子どもが人間関係でトラブルになった時に「自分の気持ちを伝えて解決する力」も育ってきます。そして、また、思春期など成長の難しい時期になった時も、このような信頼が育っていると子どもは心を閉ざしてしまうことの可能性が低くなります。

子どもと生活していると、時には子どもの行動で保護者にとってとても困るような場面が起こってもあります。そのようなときには、子どもの行動と気持ちを分けて考え、その子の行動は認められなくても「子どもの気持ち」自体は受け止めることができるようになり、親子の信頼関係をより一層高めていくことができるようになります。



例えば、着替えをしないでゲームばかりしているような場合にも、「ゲームしたい気持ちはわかるよ。でも今は着替えをしないと間に合わなくなるよね。どうしようか、お母さんと一緒に着替えをしようか。」というように子どもの気持ちを認めた上で、行動を誘い「ルールや社会的に必要なことは大人がきちんと伝える」ようにすることで、子どもは「ダメ出しされている。叱られている。否定されている」というのではなく「一緒に考えてもらっている。認めて貰っている」と感じるようになり保護者の言葉を受け入れ信頼関係を深めていけるようになります。

子どものあるがままを受け入れるということは、時には保護者にとってとても難しいこともあります。保護者としては、忙しかったり、イライラすることがあったりして「子どもを受け入れられていない」と感じる自分に責任を感じて自分を責めることもあると思いますが、そのような時、自分を責めすぎないことも大切なことです。保護者も一人の人間ですから、「今日は余裕がないな」「今日はイライラしているな」と自分に気づけるだけでも、その心は子どもにはどこかで通じているところがあるものです。「子どものあらゆることを完璧に受け入れる

保護者」になるというのではなく、「親としての心が揺れながらも、また迷いながらも少しずつ子どもの気持ちを理解し、寄り添っている保護者」であれば、それだけで子どもにとって安心できる存在になります。ですから「子どものあるがままの姿を受け入れることが大切」ということを知り理解するということは、子どもとの信頼関係を作っていく上で大切に一步になるのです。

一方、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ことで保護者自身も子育てが少し楽になれます。「もっと〇〇〇できるはず」「他の子みたいにしてほしい」と常に「保護者の描く理想の姿」と比べていると、保護者の方も疲れてしまいます。「この子は今はこういうペースなんだな」と一度子どものあるがままを受け入れることで、①イライラが少し和らぐ ②子どもの小さな成長に気づきやすくなるというようなメリットもあります。

ここで、「子どものあるがままの姿を受け入れる」ためには、具体的にどうすればよいかということを考えてみたいと思います。



まず最初は、「あるがままの子どもの気持ちを言葉にして代弁する」ということです。その例としては、次のような関わり方があります。

① 途中で遊びを中断しなければならない子どもに対して「もっと遊びたかったんだね、楽しかったもんね」と気持ちを受け止めてあげると子どもは気持ちを切り替えやすくなります。

② 遊びで負けて悔しがっている子どもに対して「負けて悔しかったんだね、本気で頑張ってたもんね」と共感してあげると、負けたことを受け入れて、前向きにまたお母さんと一緒に頑張ろうという元気が出てきます。このように、まず子どもの気持ちを受け止めてから、「でも時間になったから帰ろうね」「叩くのはやめようね」と行動のルールや社会のきまりを伝え、子どもも肯定的に受け止めて、保護者の言うことを納得しやすくなります。

次に大切なこととして、子どもたちを比べずに「一人一人、あるがまま(その子基準)」で見るということがあります。一人一人の子どもを周りの子どもたちや兄弟姉妹と比べる代わりに、「昨日より少しできるようになったこと」「この子なりに頑張っていること」に目を向けると、ありのままの子どもを受け入れ易くなります。この機会にこのようなことを考えながら子どもとの関わりを考え直していただけると子育てがこれまで以上に楽しいものになると思います。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、⑭明るくてほほ笑みの多い保護者になる ⑮ユーモアに富んだ保護者になる ⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。



子どもの思いを受けとめ代弁する・・・大事なことです。子育て頑張しましょう

サード保育園の入り口に咲いていた桜です。小さいけど綺麗でした。